

平成30年度 上伊那圏地域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 精神障がい者地域生活推進 部会	参加者数	45人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成30年11月2日(金) 15:00 ~ 16:45				
主テーマ	1 講演:「精神障がい者の地域移行・定着支援について」 2 その他					
主な意見など	※今回の部会は、伊那保健福祉事務所との共催による「平成30年度精神障がい者地域生活支援研修会」として開催した。 1 について(講師:特定非営利活動法人ハートフル事務局長 角野 太一 氏) ○演題:「精神障がい者の地域移行・定着支援について～ハートフルの活動から見えてきたもの～」 兵庫県西宮市地域自立支援協議会会長でもあり、ハートフルの障害者相談支援センター輪っふるのセンター長もされている角野氏より、地域移行の必要性や西宮市での取り組み、ピアサポーターとの協働等について、詳細な資料をもとにポイントを押さえて分かりやすくお話いただいた。講演概要は、次のとおり。 (1) 自己紹介&NPO法人ハートフルについて ・ハートフルは阪神・淡路大震災復興の居場所づくりとして、スタート。現在、7か所で事業展開している。 ・輪っふるは相談支援事業所。スタッフは15名(常勤7、非常勤8)。うち、非常勤ピアサポーターが5名いる。 (2) なぜ地域移行支援は必要なのか ア わが国の精神保健福祉施策の歩み ・明治期、精神病者監護法(1900)制定により、私宅監置が合法化。戦後、精神衛生法(1950)で私宅監置は廃止され、精神病院設置が進んだが、諸外国の病床削減に逆行し、精神科病床は増加していった。 ・精神保健法(1987)で初めて社会復帰の流れが打ち出され、その後障害者基本法(1993)、精神保健福祉法(1995)と法整備が進み、現在の地域移行・定着支援の重要性につながっている。 ・長期入院の増大を防ぐチャンスはあった(クラーク勧告)。しかし、活かされなかった。 イ 入院者の状況 ・65歳以上の長期入院者が、ほぼ半数を占め、平均在院日数も292日と諸外国と比べても突出して多い。 ・1年以上の長期入院移行者は毎年5万人。長期入院退院者も5万人。長期入院者数はほぼ変わらず。 ・長期入院退院者のうち2万人は死亡または転院。長期化するほど、家庭復帰等が困難となっていく。 ・兵庫県調査では、長期入院者本人の64.8%が治療の必要性以外の理由で入院をしている実態がある。 (3) 西宮市地域移行推進事業について ア 兵庫県の退院促進支援事業 ・県の動きに合わせ、輪っふるでも地域移行支援に取り組んだ。結果、入院中からの支援の必要性、医療、福祉単独では難しいことを補い合い、同じ思いを本人に届ける、住みたい場所での生活を目指す、病院と地域を分けない、本人に関わる職種は多いほどいいことが見えてきた。チーム支援の必要性が見えてきた。 ・長期入院から退院した方の声(「声をかけてほしい」)から、入院中から関わり、顔の見える関係性を作り、地域の当事者の声を届けることで、本人の望む地域生活へみんなでつないでいきたいと思うようになった。 イ 西宮市地域移行推進事業の実際 ・長期入院者一人一人と病院関係者の聞き取り調査をもとに、聞き取り報告会を実施。退院可能と判断されれば、地域移行推進会議でさらに話し合い、地域移行支援につなげる。病院プログラムでの退院促進や、研修・広報啓発活動の他、事務局会議も開催。このしくみにより、事業展開を図っているが、課題もある。 (4) ピアサポーターとの協働 ・養成研修を過去2回実施。受講条件や雇用条件を明確化した。雇用では3か月ごとの雇用面談を実施。ミーティングには必ず参加してもらっている。ピアサポーターの声(略)。 ・仕事内容は、病院内のプログラム参加、講演会や研修への参加、個別支援による長期入院者の退院のお手伝い(面会・外出・部屋探し・支援会議への参加等)、ミーティング参加(月2回)など。 ・ミーティングは、合同ピアミーティングと、ピアのみのミーティングの両方を行っている。最初の仕事はピアサポーターミーティングから始まる。ピアサポーターは対象者、対象者家族、自分の家族、自分自身、職場同僚病院職員をエンパワメントする力がある。ピアサポートの持つ相互エンパワメントの力を支援に活かしている。 (5) まとめ ・地域で誰もが支え合い、尊厳が保障されて暮らし続けることができる社会に変えていくことが必要である。 (6) 質疑応答 なし (7) 辰野アドバイザーよりお礼のあいさつ 2 について(事務局より) ・「地域で暮らそうフォーラム2018！」H30.12.7(金) 10:30～16:30 於:長野市芸術館 ぜひご参加を。					
まとめ	・地域移行支援の必要性を歴史を踏まえて学び、西宮市での取り組みから、示唆を得ることができた。 ・地域移行支援におけるピアサポーターとの協働の重要性やそのあり方について、学びを深めることができた。					
次回	・詳細については、後日お知らせする。					